

# 公益社団法人 日本天文学会 代議員総会議事録

日時： 2018年1月20日（土曜日） 13時00分～17時00分

場所： 東京八重洲ホール 会議室901（東京都中央区日本橋 3-4-13 9F）

出席代議員： 縣、太田、櫻井、佐藤、寺澤、土居、牧島、松下、嶺重、百瀬、相川、青木、大朝、大向、岡村、奥村、河合、柴田（一成）、須藤、馬場、望月、渡部（以上22名、委任状9名）

欠席代議員： 犬塚、杉山、中川、林（正彦）、観山、山田、吉田、海部、草野、小久保、田村、常田、戸谷、林（左絵子）（以上14名）

伊王野・山下庶務理事、早野・柴田会計理事、阿部天体発見賞委員長、佐藤事務長、黒岩事務長補佐が出席した。柴田一成会長、土居副会長、望月広報担当理事、大向研究奨励賞委員長は代議員を兼任している。

## I. 確認事項など

議事に先立ち、出席代議員が22名、議長委任状が9件、合計31件で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。前回代議員総会（2017年9月12日）の議事録が確認された。

また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議長：柴田一成

署名人：柴田一成

## II. 議題（本代議員総会では報告に先立って議題から進めることとした）

### II-1. 公益社団法人日本天文学会2018年度事業計画の承認（伊王野）

ほぼ例年通りの事業計画であるという説明があり、全会一致で事業計画が承認された。

### II-2. 公益社団法人日本天文学会2018年度予算の承認（早野）

今年度は赤字予算になっているが、一時的な事業による影響があること、積み上がっている遊休財産を減らす必要があることなどが説明された。また、研究奨励賞の原資の残高が残り少なくなっていることに関して、定期的に行っている寄付の呼びかけ等を拡充する議論があった。また、不足する場合は会費からの補填ができるように内規を改正済みであることも確認された。これらの議論ののち、公益社団法人日本天文学会2018年度予算は全会一致で承認された。

### II-3. 2017年度各賞受賞者の決定

#### 林忠四郎賞（資料5、市川）

林忠四郎賞の受賞候補者として柴田大氏が推薦され、その業績について説明されたのち、授賞理由の文言の修正をし、全会一致で承認された。

#### 欧文研究報告論文賞（資料5、市川）

Fukagawa et al. (2013), Akamatsu & Kawahara (2013)の2件が推薦され、論文内容について説明されたのち、授賞理由の文言の修正をし、全会一致で承認された。

#### 研究奨励賞（資料6、大向）

井上芳幸氏、富田賢吾氏、松岡良樹氏の3名が研究奨励賞の候補が推薦され、推薦理由について説明されたのち、富田氏、松岡氏については、文言の修正ののち全会一致で承認さ

れた。井上氏については、推薦理由が不十分であり臨時代議員総会を開催して再審議を行うことが提案され、2月12日（月・祝）に開催することとなった。

天体発見賞/天体発見功労賞、天文功労賞（資料6、阿部）

天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞（長期および短期）候補について推薦理由が説明されたのち、全会一致で承認された。

#### II-4. 会費の延滞金変更について（資料13、早野）

会費の延滞手数料は会費をもとに算出・設定されているが、平成29年度、30年度と正会員の会費を減額しているため、延滞手数料も減額すべきとの指摘があった。そこで、現行の延滞手数料1700円を1400円に減額する案が提案され、全会一致で承認された。

### III 報告

#### III-1. 理事会（2017年12月23日）の報告（伊王野）

2017年12月23日に開催された日本天文学会 理事会の報告がされた。

#### III-2. 第5期代議員選挙結果について（資料8、青木）

代議員選挙の結果が報告された。

#### III-3. 会員アンケートについて（資料9、伊王野）

年会事業の改革に向けて会員の意見を聞くアンケートの実施案について報告があった。回答の選択肢の設定やわかりづらい表記についての指摘があった。

#### III-4. インターネット版天文学辞典について（資料10、縣）

インターネット版天文学辞典の維持・更新を担当する「天文学辞典ワーキンググループ」を天文学会のワーキンググループとして設置する案が紹介された。公開後は利用者からのコメントを受け付ける窓口メールアドレスを公開し、年二回程度コメントへの対応および内容の更新を行う予定である。公開前の内容について代議員によるチェックが依頼された。

#### III-5. 天文教育普及賞について（資料11、土居）

天文教育普及賞選考委員会が2017年1月1日に発足したこと、また、委員の構成が紹介された。来年度の受賞に向けて活動を開始する。

#### III-6. 日本学術会議 IAU 報告（資料12、渡部）

IAU 分科会の役員の交代があり、新委員長は渡部潤一氏、副委員長は生田ちさと氏が就任した。IAU 創立100年記念事業について、2009年の世界天文年と似たような一般向けのイベントを多数行いたい。日本天文学会も共催するよう依頼があった。

#### III-7. 「安全保障と学術」特別セッションについて（柴田（一））

プログラムの紹介があった。メールアドレス(iken@asj.or.jp)へ寄せられた意見は今のところ1件のみである。

2018年1月20日

議長・署名人： 柴 田 一 成 印